

# 春の叙勲

## 叙勲されました

藤田学園名誉学長  
藤田保健衛生大学名誉教授  
船曳 孝彦(40回)



この度は、はからずも瑞宝中綬章を受けました。慶應義塾という私学で育ち、長い間藤田学園という私学に奉職した身としては、叙勲など全く関係ないと思っていました。国家が与える勲章というものに反発すら覚え、話があってもなかば辞退する気持ちがあったほどです。受章するようになったことは自分自身まさに想定外のことでした。

保健衛生大学病院開設と共に赴任しましたが、創立者藤田啓介総長が医学部設立当初から関係していた人たち以外で初めての病院長・学長でした。大学病院副院長就任は総長の指名でしたが、病院長、学長就任時には総長はすでに他界されていました。病院長時代に教授の定年制移行を果たし、大災害発生時の拠点としてのシミュレーション、消化器外科4教室を含め6講座の外科教室の臓器別再編成と統合化、折から実質的にスタートした臓器移植医療の最前線を走るなどしましたが、最も大きな仕事は新外来手術棟の設計、建設でした。落成して引越しも終わり、これで大学生活も終止符を打つ時として今後の身の振り方などを考え始めていた時、学長に選出されました。

学長就任早々文科省の『21世紀COEプログラム』自然科学分野の拠点申請の期限が迫っていました。申請したものの、関連部署を中心とした検討しかなされておらず、

あえなく落選しました。次年度医学分野では、何とかして勝ち取ろうと、前年の敗因を分析し、全学を挙げてアイデアを出させ、学閥を排除して徹底的に討論を重ね、一つに纏め上げました。理事会と掛け合い広い研究実験スペースを確保し、免疫学、分子生物学的手法を中心に『超低侵襲標的化診断治療開発センター』として申請しました。

その結果、30拠点、25大学の1つとして採用され、しかも慶應義塾を含め私立大学7校中の1つ、新設医科大学・医学部では唯一の採用でしたので、全国の注目を集めることとなりました。世界をリードする最先端研究拠点(文科省)と認められたわけですから、歴史の浅い大学としては特に快挙との評価を受けました。

一方で名城大学薬学部との連携、センター入試の導入なども加わり、受験生の偏差値は国立大学並みに上がり、いまや医師国家試験合格率も全国80大学中上位4分の1以上にランキングされるようになり、教授以下のス

タッフの学会における活躍も目覚ましいものがあります。

創立者藤田総長が描いていた一流大学への道に乗ってきたともいえましよう。

多くの医師を育て、大

学を発展させたことが、社会に対して貢献したと

公に評価して戴いての綬章ということになりましたので、大変喜んでいきます。

5月13日皇居で天皇陛下に拝謁し、社会に大きな貢献をなされたこと感謝しますというお言葉を戴きました。

もはや甚だ微力となっ

てしまいましたが、多少

なりとも社会のお役に立つことが出来れば幸いです。その一環として

神野哲夫(44回生)藤田保健衛生大学名誉教授が進めている特定非営利活動法人『国際医療連携機構』の一部を担わせても、アジア発展途上国の医療水準向上に努めています。

国立大学では名誉教授称号が得られるほど教授をしていれば、皆さん叙勲対象となりますが、私学では学長しか対象になり、名誉教授での叙勲は〇〇審議会委員など公的機関の仕事をしていないければ対象者とならないと聞きます。

そこで自分の現役時代の功績は叙勲に相応しかったかと考えてみました。私は昭和48年、名古屋